

16. 日本のキリスト教

○日本のキリスト教…明治初期に信仰の許可。知識人階級を中心に浸透

□**内村鑑三**[1861-1930]日本の代表的な思想家・キリスト者。高崎藩(現在の群馬)の武士の家に生まれ、儒教道徳と武士道精神のもとに少年時代を送る。札幌農学校で初めてキリスト教に触れる。以後、日本に真のキリスト教が根付くと考えるに至り、二つのJに生涯をかけると決心し、愛する日本を神の義に適う国にするために生涯をささげた [著書]『余は如何にして基督信徒となりし乎』

- ・二つのJ…Jesus(イエス)とJapan(日本)のこと。二つのJは、相矛盾するものではなく、イエスへの純粋な信仰のなかで、近代化の進む日本での精神的再生を図ろうとした

「私は日本のために 日本は世界のために 世界はキリストのために そしてすべては神のために」 (内村鑑三墓碑銘)

- ・「**武士道に接木されたるキリスト教**」…社会正義を貫き、清廉潔白な武士道こそがキリスト教の真理と正義の土台である
- ・**無教会主義**…人間は神の前に立つ独立的人格→教会や儀礼にとらわれず、直接聖書の言葉を読むことに基づく信仰をすべき (パウロ・ルターらの福音主義に類似) →明治の知識人に大きな影響
- ・**非戦論**…日露戦争反対の主張。神は人間に「殺すなかれ」と命じている→絶対的な平和主義こそが真の正義&愛国の道
- ・**内村鑑三不敬事件**…第一高等中学校の講師であった内村が、教育勅語奉読式で最敬礼を行わなかったため、非難を受け辞職。(←キリスト教の神以外に「礼拝」する事への拒否)

□**新渡戸稲造**[1862-1933]明治末期-昭和初期の教育者。札幌農学校で内村らとともに学ぶ。アメリカ・ドイツに留学後、教師として東大や京大で教育活動をおこなう。キリスト教に基づく人格主義・理想主義の教育を行う。また、新渡戸は「**太平洋の橋**」となることをめざし、キリスト教徒日本文化との融合、日本文化の海外への紹介を行い、晩年は国際平和のために国連事務総長として活躍した

[著書]『**武士道**』…日本人の精神を世界に紹介するために著した英文の書。武士道はキリスト教を受け入れる素地であると紹介した

□**新島 襄**^{じょう}[1843-90]明治の宗教家・教育者。聖書に感銘を受け、幕末に海外へ密航。苦学して大学へ進学し、神学を修める。帰国後京都に**同志社**を創設し、キリスト教を基本とした教育活動を行う

□**植村正久**[1857-1925]明治・大正期の日本プロテスタント教会の中心。日本人**伝道者を養成**し、日本の神学の基礎を築く。また、国家主義的風潮にも激しく抵抗した

センター問題に挑戦! No.16 (2003年追試) [標準]

「アジアの盟主としての日本の植民地支配」に関連して、台湾総督府の植民地官僚でもあった新渡戸稲造の説明として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① キリスト教に匹敵する精神文化として、日本に武士道の伝統を見出し、それを世界に紹介した。
- ② キリスト教の影響を受けながら、学生時代には人道主義に傾倒し、のちに大正デモクラシーの指導的役割を担った。
- ③ キリスト教の洗礼を受け、啓蒙思想の普及に努め、『西国立志編』などの翻訳書を世に出した。
- ④ キリスト教の信仰に基づき、日露戦争に際しては、絶対平和主義を主張して、徹底した非戦論を唱えた。

[No.15の答② アジアの兄弟姉妹・共通→アジアとしての一体感 欧州からの区別]